

## 第四次愛知県教育振興基本計画（仮称）第3回検討会議 発言概要

### 「はじめに」について

- 一人一人を大切にすることを、「はじめに」や第1章に入れるべき。育みたい力として、多様性を尊重する人に育って欲しいという願いは基本理念に書いてあるが、それを実現するために、県として教育という営みをどうするかという理念もどこかで触れるとよいのではと考える。（柴田好章委員）

### 「第1章 めざすあいちの教育」について

#### 1 基本理念

- 「自分らしさを社会で生かす、互いのよさを生かし合える」とあるが、愛知県は全国一外国人が多い。「生かす」のも大事かも知れないが、「認め合う」が最初に来た方がよい。認め合えないからいじめなどが起こるのではないか。（石川委員）
- 文が長いので、「自らを高めることと、社会の担い手になることを基本とし、ふるさと愛知の文化・風土に誇りを持ち、世界的視野で主体的に深く学ぶ姿勢を培うとともに、かけがえのない生命や自分らしさ、多様な人々の存在を尊重する豊かな人間性と、知徳体にわたる生きる力を育むあいちの教育を進めます。」と修正してはどうか。（柴田悦己委員）
- 文が長く、重なる部分もあるため、精査して短くすることができる。理念は端的にして説明は前文で補ってはどうか。（青木委員）
- 「豊かな人間性」は「生きる力」に含まれるのではないか。また、「自らを高めること」「社会の担い手になること」はキーワードかと思うが、「社会の担い手になること」に「自分らしさを社会で生かし」を付けて「自分らしさを生かしながら社会の担い手となる」としたり、「自らを高めること」の部分も「身につけた生きる力をもとに」などとしてはどうか。（鈴木委員代理）
- 修飾語を全てとると、「豊かな人間性と生きる力を育む」と「自分らしさを社会で生かし、お互いのよさを生かし合える人を育む」になる。この2つのことが言いたいことなのではないか。修飾語が多すぎるので、2つのことが言いたいのであれば2つに絞ってシンプルに書いた方がよい。（岩原委員代理）

#### 2 基本的な取組の方向

- 「不登校児童生徒への対応の充実」との表現があるが、「不登校」ではなく「長期欠席児童」などとならないか。「不登校」との表現は子供に対して「悪いバッジ」を付けるようである。（小玉委員）
- 「施策の展開」の中にICTという言葉が随所に出てくる。ICTの活用を一つにまとめて、網羅的に示してはどうか。（榊委員）
- 「人材」という表現を見直すべきではないか。（加藤聡也委員）

- 基本的な取組の方向（１）の説明に、「生きる力を身に付け」とあるが、「生きる力」は他にも関わってくるため、削除してもよいのではないか。また、「力」と「姿勢」が混在し、違和感がある。（鈴木委員代理）
- 「自律」というキーワードを基本的な取組の方向（１）または（２）、基本理念等に入れるべき。（犬塚委員）
- 基本的な取組の方向（１）の説明が読みにくいいため、整理が必要。また、「一人一人の能力・適性や生活環境」に応じるのはきめ細かな教育のために大切なのは当然だが、ここでは「一人一人の個性」などとした方が理念としてはよいのではと考える。（柴田好章委員）
- 「不登校児童生徒」は実際に使用されている用語である。用語の変更は影響が大きいいため、しっかりと検討する必要がある。（小野委員）

## 「第２章 取組の柱と施策の展開」について

### １ 自ら学びに向かう教育を充実させ、自己の可能性を伸ばす力を育みます

#### （１）主体的・対話的で深い学びの推進ときめ細かな指導の充実

（発言なし）

#### （２）情報活用能力の育成とＩＣＴ活用教育の推進

- 「クラウド型教育システムにより、個々の学習履歴の把握、匿名化された教育ビッグデータの活用」とあるが、個人情報の扱いには一定の慎重さが必要と考える。（加藤聡也委員）
- 「本来は子供たちが自分で個別最適な学びを作っていくことが大事である」と、国の考えが大きくシフトしている。「また全ての子供たちに個々の理解状況や適性に合わせた個別最適な学び」を「全ての子供たち『が』」個々の理解状況に応じた学びを作っていくことが大事と書いた方がいいのではと考える。（玉置委員）
- 「少人数学級を推進」とあるが、他では「少人数学級の早期実現を目指す」とある。できれば「推進」ではなく「早期実現を目指す」として欲しい。また、ＩＣＴに係る配置のことが書かれているが、学校でＩＣＴ教育を推進していくためのＩＣＴ支援員とか人的配置の面についても入れていただきたい。（青木委員）

#### （３）ＳＤＧｓの視点を踏まえた教育の推進

（発言なし）

#### （４）多様な学びを保障する学校・仕組みづくり

- 夜間中学の開設のニーズの把握とその対応を検討していただきたい。課題だけを研究するのではなく、開設に向けた積極的なニーズ把握が求められているのではないか。また、

母語の習得支援についても記載が必要。(土井委員)

**(5) 理数教育の推進**

(発言なし)

**(6) 特別支援教育の充実**

(発言なし)

**(7) 幼児教育の充実**

- 「幼児教育の改善と充実」とあるが、「改善」という言葉が気になる。「改善」ではなく「より深い充実」を目指すというような表現にならないか。この表現では現状が悪いと感じられる。また「集団活動」ではなく「集団生活」と修正を。(石川委員)

**(8) 私立学校の振興**

(発言なし)

**(9) 大学等高等教育の振興**

(発言なし)

**2 人としての在り方・生き方を考える教育を充実させ、実践力を伴った道徳性・社会性を育みます**

**(10) 人権教育・多様性理解の推進**

(発言なし)

**(11) 道徳教育の充実**

(発言なし)

**(12) いじめへの対応の充実**

- いじめは、大人の分からないところで起きている。「いじめを起こさせない指導の充実と児童生徒の社会性の育成」と字で書けば簡単だが、本当に真剣に取り組んでいただき、子供たちの信号をしっかりと受け取って、大きな事件にならないようにしていただきたい。(小玉委員)
- 子供に「指導する」だけでなく、大人が率先垂範することを書くべき。また、「機会」をもう少し具体的にした方がよい。(犬塚委員)
- いじめを受けた生徒や保護者の相談しか書かれていない。現在の親に対して子育ての「相談」ではなく、子供の育て方を「教育」という文言の中に入れるべき。(小玉委員)

員)

**(13) 不登校児童生徒への対応の充実**

(発言なし)

**(14) 主権者教育等の推進**

- 日本の選挙権は外国籍のみの子供たちにはあてはまらない。いろいろな主権があることにも触れてほしい。(土井委員)

**3 健やかな体と心を育む教育を充実させ、生涯にわたって、たくましく生きる力を育みます**

**(15) 生涯学習の推進**

(発言なし)

**(16) 家庭教育・子育ての支援の充実**

- 児童相談所との連携について具体的な文言を入れるべき。(青木委員)

**(17) 学校体育・生涯スポーツの充実**

(発言なし)

**(18) 健康教育・食育の推進**

- 熱中症対策の観点も入れるべき。(青木委員)
- 多様な人がいる観点から言うと、宗教的な理解や主義への理解が進む形での啓発に取り組んでいただけたらと考える。(土井委員)
- 自殺予防について、子供が将来の自己実現に向けて明るい展望がもてる教育を推進するとの表現が入るとよい。(福山委員)

**4 ふるさとの魅力や愛知の伝統・文化に学びつつ、技術の進歩に取り組み、社会の発展を支える人を育みます**

**(19) ふるさと教育の推進と新たな文化の創造**

- 「へき地」という言葉だが、へき地教育振興法という言葉は残っているが、へき地よりも「過疎地」「人口減少地域」とした方がよいのでは。(榊委員)
- へき地であっても同じ教育を受けられることが重要であるので、教育の平等性をどこかに謳ってほしい。また、スクールバスを使うことによって、子供たちの通学時間が短縮できて学習環境にいいのかは疑問。もう少し考えた方がよい面があるのではないか。(黒田委員)

## **(20) 社会の担い手の育成に向けたキャリア教育の推進**

- 「なりたい自分を見つけ」との表現があるが、大人になっても夢やなりたい自分を見つけるのは難しい。「見つける姿勢を培う」とか「探そうとする意欲を高める」の方がよいのでは。また、女性活躍に関して、女性が弱い分野での学習を促す文言を入れていただきたい。(犬塚委員)
- 国境を越えた人の移動がある中でのキャリア教育の視点を入れていただけたらと考える。外国人も日本人も国境を越えて行き来する中で、将来的なキャリアをどうしていくのかは大きなポイントであるので、その視点も盛り込んでいただきたい。(土井委員)
- 多様性理解についてキャリア教育でどうしていくのかという文言が入らないか。また、レジリエンス、回復する力を高める教育をキャリア教育に追加すると自殺予防にもつながるのではないか。(犬塚委員)
- 保育士が不足している。大学で養成するのはもちろんだが、保育者を目指す高校生を増やす、保育に魅力を感じるキャリア教育が必要。(山本委員)

## **(21) 産業を支える人材の育成**

- 大学・産業界との連携に関してデジタル人材の育成が書かれているが、地域全体でデジタル人材を育成しないと一気に産業競争力がなくなる。県も強いメッセージを出して欲しい。(岩原委員代理)

## **5 世界とつながり、生き生きと活躍するために必要な力を育みます**

### **(22) グローバル社会への対応の推進**

- 「日本人としての自覚をもち」との表現があるが、日本人に特化することのないよう、修正をお願いしたい。また、「多文化共生で求められる強い精神力」との表現があるが、違和感を覚える。また、日本語教育に関する項目が多くあがっているが、(24)「日本語指導が必要な児童生徒等への支援の充実」に書けばよいのではないか。多文化ということであれば、文化や習慣への理解とか、民族差別や人種差別に関する啓発などを入れた方がよい。(土井委員)

### **(23) 外国語教育の充実**

- 中身は英語しかない。英語以外の外国語はどうなっているのかが気になる。愛知県にはいろいろな背景を持った外国の方が教員として採用される仕組みがあるので、例えばそういった方や保護者の協力で、いろいろな言語に触れる機会があるとよい。(土井委員)
- 愛知県だけの問題ではないが、せっかく特別な免許状を与えられる制度があるので、ネイティブ・スピーカーに授業を任せられるよう、特別免許状の積極的な活用が欲しい。(榊委員)

## **(24) 日本語指導が必要な児童生徒等への支援の充実**

- 「外国人幼児児童生徒教育支援員の配置」とあるが、これは母語指導をする方も含めているのか。含めているのであれば、母語指導、母語支援、通訳について記載をお願いしたい。(山本委員)
- 取組や施策が基本的な取組の方向につながってこない。基本的な取組の方向1に入るとよいのではないか。(青木委員)

## **6 子供の意欲を高め、教師の働きがいがある魅力的な教育環境づくりを進めます**

### **(25) 学校における働き方改革**

- 「大胆な業務の削減」「外部委託化」「専門スタッフ」など、かなり踏み込んで書かれている。部活動についても「対外試合を実施しない日」「各種大会の精選」などかなり思い切った提案がある。現場のアンケートでは、本来の業務でもまだ余裕がないことが明らかになった。部活動に関して運動部はいろいろな位置づけがあるが、考え方を整理するのもよいことである。(加藤聡也委員)
- 力強い言葉があるのでうれしいが、これに施策がリンクすることが、現場の教員からすると納得がいく。「直ちに実行」とあっても施策が抽象的すぎると、進んでいかないと不安を抱く。可能な限り施策の展開を具体化することをお願いしたい。また、簡単に解決できる問題ではないので、現場、教育関係者の声を聞く場、振り返りの場を5年間の中でも短いスパンで取組を進めることが分かる内容になるとよい。(青木委員)
- 「ICTの活用による業務改善」の項目があるが、校務支援システムを入れることは非常に効果的と考える。また、授業で生徒が使うソフトを整備すると教員の負担が減る。授業の中で積極的にICTを活用していくことによって、校務支援にも波及してくるので、その点も進めていただきたい。(柴田好章委員)
- 部活動を一生懸命やっている、部活動を子供の教育に取り入れて楽しんでやっている先生がかなりいると思う。無理に命じられてやっている人もいるかも知れないが、やりたくてやっている先生もかなりいる。先生が部活をやらずに専門員に任せるというようなことばかり書いてある。身体を鍛え部活動を通して人間育成ができる教員の配置・採用等の文言を追加していただきたい。(黒田委員)

### **(26) 開かれた学校づくりと学校への支援**

(発言なし)

### **(27) 教員の人材確保と資質向上の推進**

- 「外国人児童生徒」との表現があるが、他では「外国人児童生徒等」としている箇所がある。標記の統一をお願いしたい。また、外国人児童生徒を担当する教員を対象とした研修について、担当教員の日本語指導だけに特化せず、幅広い関係者への研修を入れていた

だきたい。(土井委員)

**(28) 学校施設・設備の充実**

(発言なし)

**7 大規模災害や感染症拡大等の緊急時においても、子供たちが安心・安全に学べることを保障します**

**(29) 大規模災害や感染症拡大等の緊急時における学びの保障**

(発言なし)

**(30) 安全・防災教育の推進**

(発言なし)